

## 詩編 第100編 5節

「主はいつくしみ深く、その恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。」

黒雲を背景として高層ビルがそびえ立っている。その背景のせいか、見上げる者を圧倒するような姿である。青空に漂う軽やかな雲を背景にするときは爽やかにさえ感じる近代的ビルに変わる。晴天下では見上げる者の心をスッキリ、晴ればれさせる。建物自体はなんら変わらないが、背景によっては見る者の気分を変えてしまう。

主のいつくしみ、恵み、信実はとこしえに、代々に至る。ビルにはたとえようがない確かさで天地を貫いてそびえたつ主の素晴らしさがある。たとえ主の周辺が波風、嵐、混乱の様相を帯びても、主の素晴らしさは不動である。世の嵐がいかに険しくても主の素晴らしさは微動もせず、むしろその真ただ中でこそ、主のいつくしみ、恵み、信実がそびえ立ち輝く。世の嵐に在って、主の輝きがますます嵐の世で明らかになる。

高層ビルの背景から見る建物ではなく、どのような天候でもそびえ立つビル  
の力強さから雲を見るのもよい。それ以上に、主の永遠なる、いつくしみ、恵  
み、真実から世の嵐に立つのがよい。主の素晴らしさから世を見るのがよい。  
主の眼差しで見る世が本当の世である。